

2023年3月期 通期

決算説明会

2023年5月19日



証券コード
6638

CJV330 Series



CFX-2513



TxF150-75



3DUJ-2207



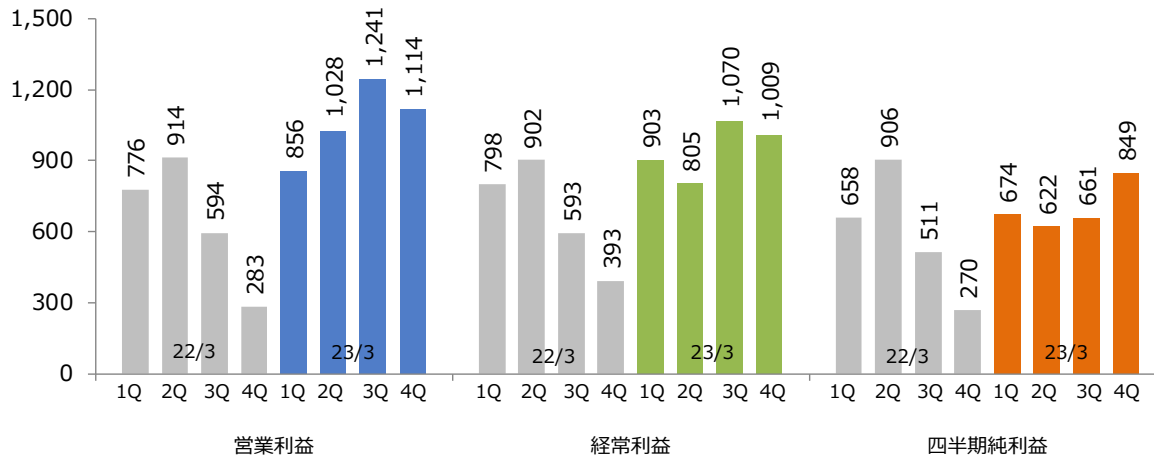
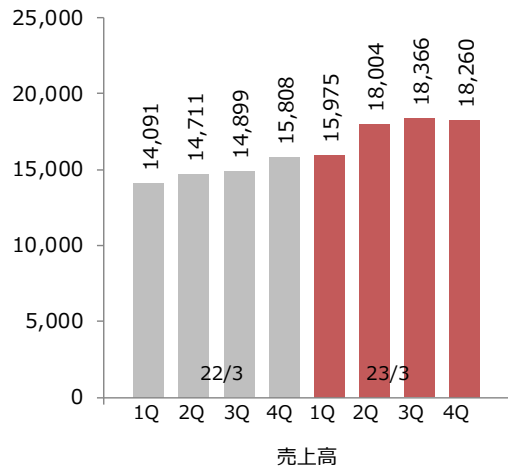
2023年3月期 連結業績

- ❖ 第4四半期・通期実績
- ❖ 2024年3月期 通期予想
- ❖ 中長期成長戦略「Mimaki V10」の進捗と
2023年度 ミマキグループ経営方針

連結業績ハイライト (2023年3月期 4Q)



(単位：百万円)	2022年3月期		2023年3月期				
	4Q実績	売上高 比率	4Q実績	売上高 比率	前年同期比増減		
					金額	率	率(除為替)
■ 売上高	15,808	-	18,260	-	2,451	15.5%	8.9%
■ 営業利益	283	1.8%	1,114	6.1%	830	292.5%	-
■ 経常利益	393	2.5%	1,009	5.5%	616	156.6%	-
■ 親会社株主に帰属する 四半期純利益	270	1.7%	849	4.7%	578	213.5%	-
為替レート (期中平均)	米ドル 116.21円	-	132.32円	-	16.11円	13.9%	-
	ユーロ 130.40円	-	142.07円	-	11.67円	8.9%	-



連結業績のポイント (2023年3月期 4Q)



■ 4Q売上高

- 前年同期比 2,451百万円の増収(+16%、内為替影響 +1,040百万円)、前回予想比上振れ
- 半導体不足や輸送リードタイム長期化による影響は改善
- SG、IP、TAの各市場向けはいずれも販売が伸長し、為替のプラス効果もあり前年同期比で大幅増収
- 欧米を中心とした経済成長減速を踏まえて下方修正した3/13売上高予想に対し、SG、IPがけん引して上振れたものの、修正前の水準までは挽回できなかった

■ 4Q営業利益

- 前年同期比 830百万円の増益(+293%、内為替影響 +420百万円)、前回予想比上振れ
- 部材調達コストやエネルギーコスト高騰の影響が残る中で、引き続き販売価格の見直しを進めた
- 売上原価率は、輸送コストは減少した一方、高いコストで調達した部材の影響等により悪化
- 販管費は、事業・営業活動が活発化する中で効率的な費用執行に努め前年同期並、販管費率が改善
- これらに、円安によるプラス効果も加わり、大幅増益

■ 4Q末バランスシート

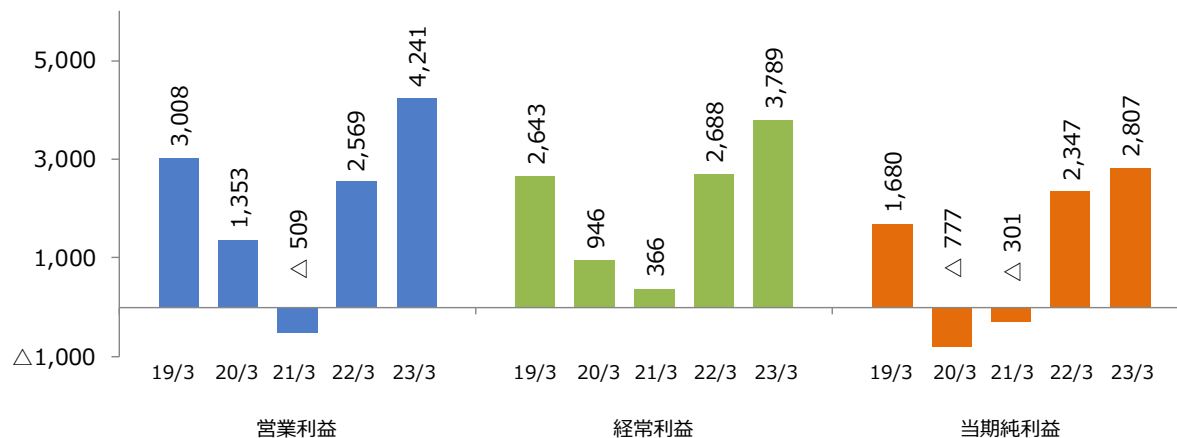
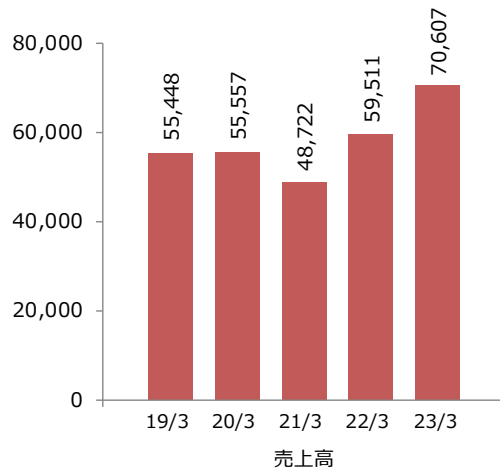
- 重点指標のCCC*は、部材コスト上昇及び需要鈍化による在庫額増加により、前四半期末比悪化
2022/3/末:5.27月→6/末:5.50月→9/末:5.14月→12/末:4.83月→2023/3/末:5.27月

*CCC : Cash Conversion Cycle、今期から破産更生債権を含めたため、前期開示値から数値が変化

連結業績ハイライト (2023年3月期 通期)



(単位：百万円)	2022年3月期		2023年3月期							
	通期実績	売上高 比率	通期実績	売上高 比率	前期比増減			前回予想	前回予想比 増減額	
					金額	率	率(除為替)			
■ 売上高	59,511	-	70,607	-	11,095	18.6%	9.7%	70,000	607	
■ 営業利益	2,569	4.3%	4,241	6.0%	1,671	65.1%	-	4,000	241	
■ 経常利益	2,688	4.5%	3,789	5.4%	1,101	41.0%	-	3,580	209	
■ 親会社株主に帰属する 当期純利益	2,347	3.9%	2,807	4.0%	459	19.6%	-	2,450	357	
為替レート	米ドル	112.38円	-	135.48円	-	23.10円	20.6%	-	135.48円	△ 0.00円
(期中平均)	ユーロ	130.56円	-	140.97円	-	10.41円	8.0%	-	140.85円	0.12円



営業利益増減要因 (22/3期 vs 23/3期)



【通貨別影響額】

USD	112.38円	→	135.48円	+1,404
EUR	130.56円	→	140.97円	+723
CNY	17.51円	→	19.75円	△737
TRY	11.23円	→	7.65円	△377
BRL	21.11円	→	26.28円	+291
その他 (AUD、IDR等)				+493
			合計	+1,796

【売上・原価・営業利益への為替影響】

売上高 5,346 - 売上原価 2,317 - 販管費 1,231 = 営業利益 1,796

【売上原価率増減要因】

主に部品・原材料及び
輸送費の高騰影響

【販管費増減の要因】

人件費	642
研究開発費	463
販促費	434
製品補修費	△408
貸倒引当金	△290
旅費交通費	274
その他	583
合計	1,699

(単位：百万円)

①為替影響

②売上高増減影響

③売上原価率
増減影響

④販管費増減影響

2,303

△728

△1,699

2,569

1,796

売上原価率

59.9%



61.0%
(+1.1pt)

販管费率

35.8%



35.2%
(△0.6pt)

4,241

営業利益
(22/3期)

営業利益
(23/3期)

営業利益 16億71百万円

市場別売上高 (2023年3月期 4Q)



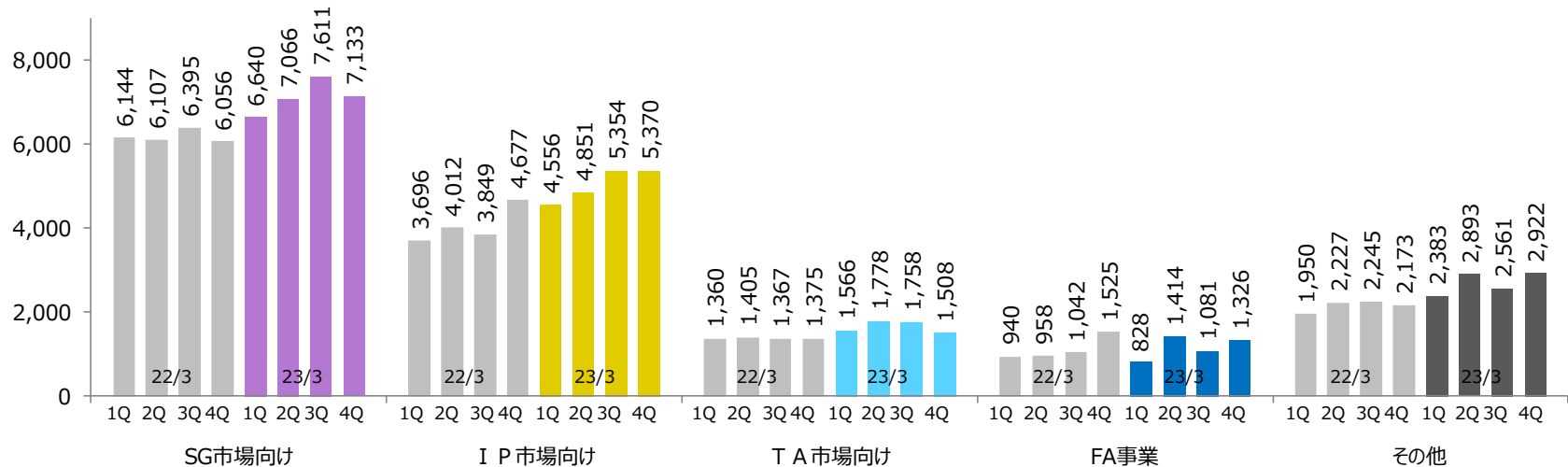
(単位：百万円)	2022年3月期		2023年3月期				
	4Q実績	構成比率	4Q実績	前年同期比増減			構成比率
				金額	率	率(除為替)	
■ S G 市場向け	6,056	38.3%	7,133	1,077	17.8%	8.1%	39.1%
■ I P 市場向け	4,677	29.6%	5,370	692	14.8%	8.5%	29.4%
■ T A 市場向け	1,375	8.7%	1,508	132	9.6%	1.5%	8.3%
■ F A 事業	1,525	9.6%	1,326	△ 199	△13.1%	△11.5%	7.3%
■ そ の 他	2,173	13.7%	2,922	749	34.5%	-	16.0%
合 計	15,808	100.0%	18,260	2,451	15.5%	8.9%	100.0%

- SG市場向け: 主力のミドルレンジモデルやエントリーモデル、新製品効果が顕著な Cuttingプロッタが好調に推移するとともに、新製品のフラグシップモデルも販売増に寄与、インク販売も好調で大幅増収
- IP市場向け : 本体はラインナップを更新した主力の小型FB(Flat Bed)機の販売が大幅に伸長、大型FB機も好調に販売を伸ばし、本体に加えインク・保守部品の販売も好調に推移して大幅増収
- TA市場向け : 中南米やアジアでエントリーモデルが、日本、北米、欧州の先進国で新製品のフラグシップモデルがそれぞれ販売を伸ばすとともに、保守部品も販売増となり増収
- FA事業 : 前年同期の需要急回復に伴う大幅な販売伸長に対し、当四半期は半導体製造装置以外は減収

市場別売上高 (2023年3月期 通期)



(単位：百万円)	2022年3月期		2023年3月期						
	通期実績	構成比率	通期実績	前期比増減			構成比率	前回予想	前回予想比増減額
				金額	率	率(除為替)			
SG市場向け	24,704	41.5%	28,451	3,747	15.2%	4.6%	40.3%	27,983	468
IP市場向け	16,235	27.3%	20,132	3,896	24.0%	14.0%	28.5%	20,060	71
TA市場向け	5,509	9.3%	6,611	1,102	20.0%	9.2%	9.4%	6,738	△ 126
FA事業	4,465	7.5%	4,650	184	4.1%	4.3%	6.6%	4,795	△ 144
その他	8,596	14.4%	10,760	2,163	25.2%	-	15.2%	10,421	338
合計	59,511	100.0%	70,607	11,095	18.6%	9.7%	100.0%	70,000	607



エリア別売上高 (2023年3月期 4Q)



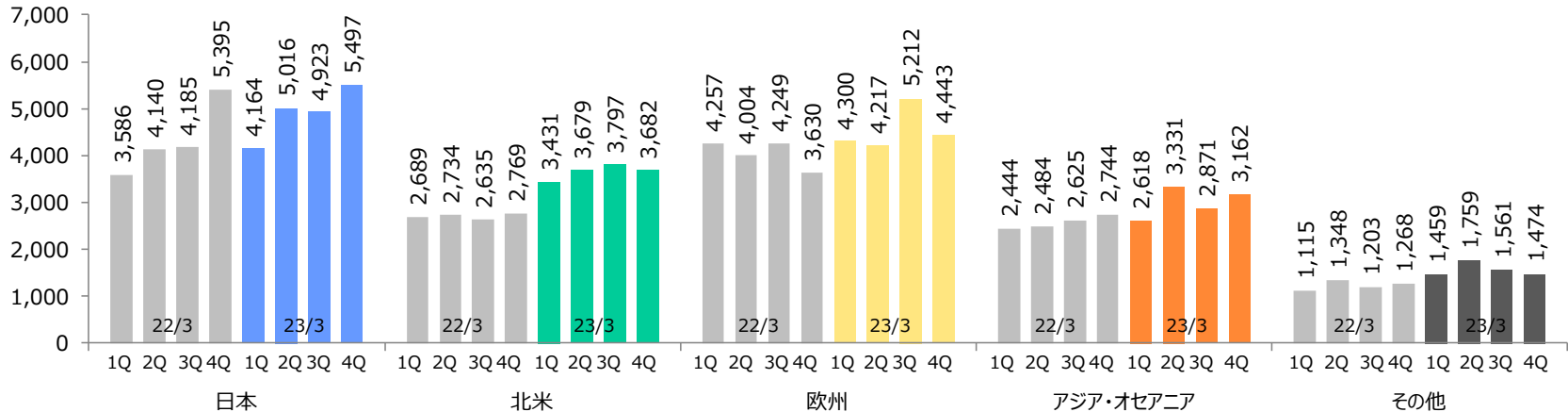
(単位：百万円)	2022年3月期		2023年3月期			
	4Q実績	構成比率	4Q実績	前年同期比増減		構成比率
				金額	率	
■ 日本	5,395	34.1%	5,497	101	1.9%	30.1%
■ 北米 (現地通貨/\$)	2,769	17.5%	3,682	912	33.0%	20.2%
	23.8M	-	27.8M	3.9M	16.8%	-
■ 欧州 (現地通貨/€)	3,630	23.0%	4,443	813	22.4%	24.3%
	27.8M	-	31.2M	3.4M	12.3%	-
■ アジア・オセアニア	2,744	17.4%	3,162	417	15.2%	17.3%
■ その他	1,268	8.0%	1,474	206	16.2%	8.1%
合計	15,808	100.0%	18,260	2,451	15.5%	100.0%

- 日本：小型FB機を中心としたIPや需要が堅調なTAの販売が伸長した一方、前年同期は需要の急回復に伴い大幅に販売伸長したSGとFAが、当四半期は販売減少となり、全体では前年同期並
- 北米：IPは小型・大型FB機が、SGも主力ミドルレンジモデルを中心に販売が伸長、為替の円安効果もあり大幅増収となったものの、3/13売上高予想下方修正前の水準までは挽回できなかった
- 欧州：ドイツ、イタリア、ポルトガル、スペイン、フランス等主要国の殆どで特にSGの販売が大幅に伸長、現地通貨ベースでも二桁超の大幅増収となったが、ほぼ3/13修正値並の水準となった
- A・O：中国がゼロコロナ政策解除で徐々に販売回復、他オーストラリア等ほぼ全ての国・地域が販売増で大幅増収

エリア別売上高 (2023年3月期 通期)



(単位：百万円)	2022年3月期		2023年3月期					
	通期実績	構成比率	通期実績	前期比増減		構成比率	前回予想	前回予想比増減額
				金額	率			
■ 日本	17,307	29.1%	19,602	2,295	13.3%	27.8%	19,471	131
■ 北米 (現地通貨/\$)	10,828	18.2%	14,590	3,762	34.7%	20.7%	14,209	381
	96.3M	-	107.6M	11.3M	11.8%	-	104.8M	2.8M
■ 欧州 (現地通貨/€)	16,141	27.1%	18,174	2,032	12.6%	25.7%	18,118	56
	123.6M	-	128.9M	5.2M	4.3%	-	128.6M	0.3M
■ アジア・オセアニア	10,299	17.3%	11,983	1,684	16.4%	17.0%	11,898	85
■ その他	4,935	8.3%	6,255	1,320	26.7%	8.9%	6,302	△47
合計	59,511	100.0%	70,607	11,095	18.6%	100.0%	70,000	607



要約貸借対照表 (2023年3月31日現在)

(単位：百万円)		2022年 3月31日	2023年 3月31日	増減額	増減率
資産の部	現金及び預金	8,971	10,485	1,513	16.9%
	受取手形及び売掛金(※1)	10,176	12,303	2,126	20.9%
	たな卸資産	25,832	28,015	2,183	8.5%
	その他流動資産	2,514	2,888	373	14.8%
	流動資産合計	47,495	53,692	6,197	13.0%
	有形固定資産	10,177	12,011	1,834	18.0%
	無形固定資産	587	911	323	55.0%
	投資その他の資産	2,596	3,174	577	22.2%
	固定資産合計	13,362	16,097	2,734	20.5%
合計	60,857	69,789	8,932	14.7%	
負債・純資産の部	支払手形及び買掛金(※1)	9,488	9,103	△384	△4.1%
	短期借入金(※2)	14,436	21,525	7,089	49.1%
	その他流動負債	8,404	9,515	1,110	13.2%
	流動負債合計	32,329	40,144	7,815	24.2%
	長期借入金	8,432	5,476	△2,956	△35.1%
	その他固定負債	1,378	2,112	734	53.3%
	固定負債合計	9,810	7,589	△2,221	△22.6%
	負債合計	42,140	47,733	5,593	13.3%
	純資産合計	18,716	22,056	3,339	17.8%
合計	60,857	69,789	8,932	14.7%	

❖ 資産の部 +8,932

- ・ 流動資産 (+6,197)
→商品及び製品の増加等
- ・ 有形固定資産 (+1,834)
→使用権資産の増加等
- ・ 投資その他の資産 (+577)
→繰延税金資産の増加等

❖ 負債の部 +5,593

- ・ 流動負債 (+7,815)
→支払手形及び買掛金 (+692)
電子記録債務 (△1,077)
→短期借入金 (+7,957)
- ・ 固定負債 (△2,221)
→長期借入金 (△2,956)
→リース債務 (+615)

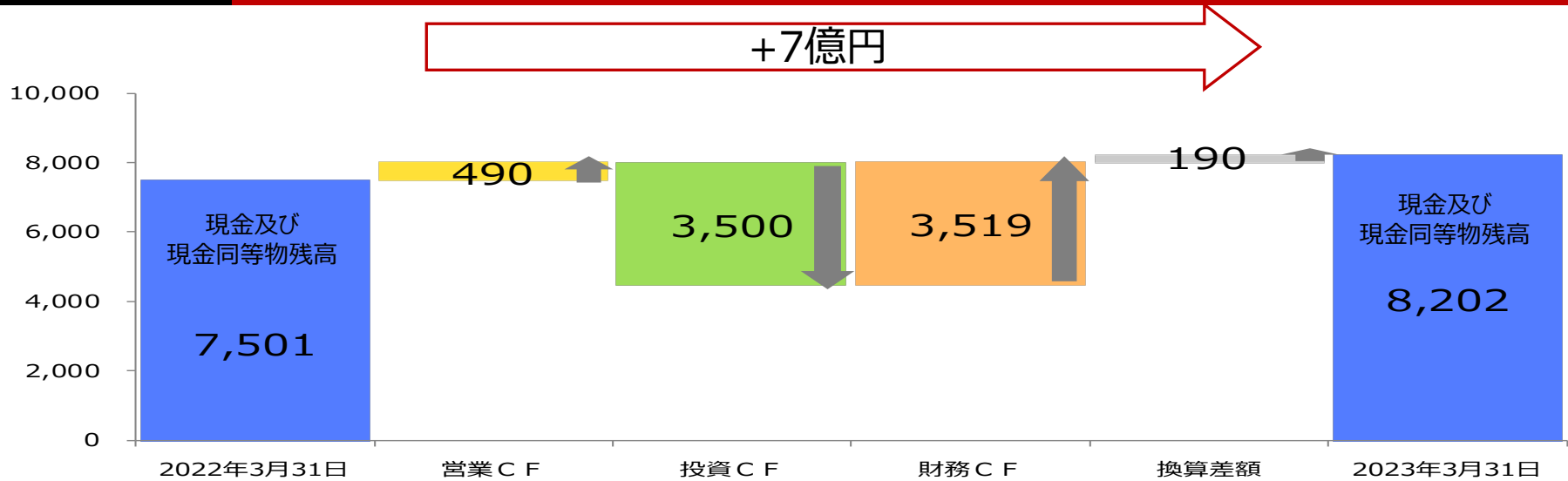
❖ 純資産の部 +3,339

- 利益剰余金 (+2,447)

(※1) 電子記録債権、電子記録債務を含む

(※2) 1年内返済予定長期借入金を含む

キャッシュ・フロー (2023年3月期 通期)



営業キャッシュ・フローの状況

EBITDA (※)	5,847
運転資金増加	△ 3,897
税金、利払等	△ 1,458
合計	490

投資キャッシュ・フローの状況

定期預金の収支	△ 815
固定資産の取得	△ 2,548
その他	△ 136
合計	△ 3,500

財務キャッシュ・フローの状況

短・長期借入金収支	4,188
配当金支払	△ 432
その他	△ 236
合計	3,519

(※) 利払前、税払前、償却前の営業利益

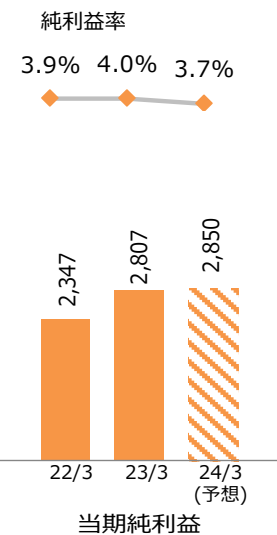
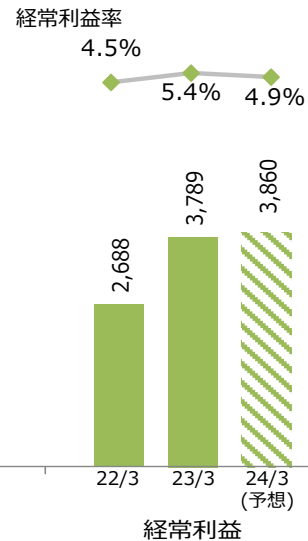
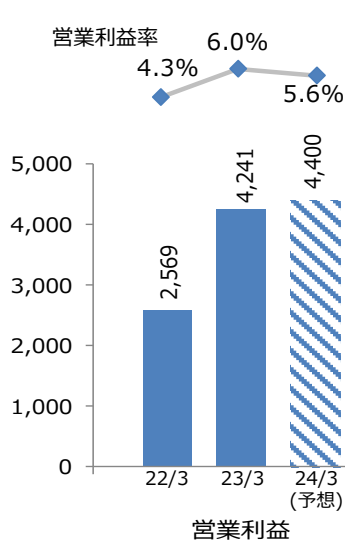
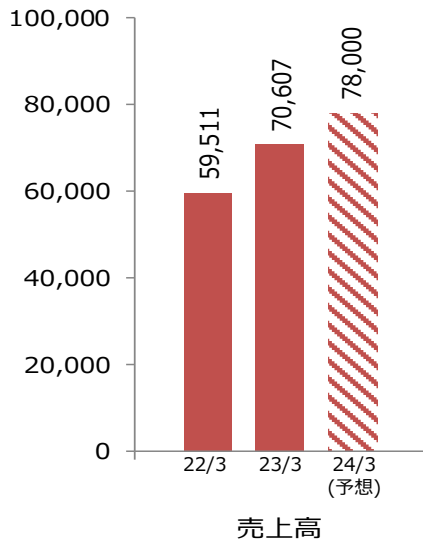
2023年3月期 連結業績

- ❖ 第4四半期・通期実績
- ❖ 2024年3月期 通期予想
- ❖ 中長期成長戦略「Mimaki V10」の進捗と
2023年度 ミマキグループ経営方針

連結業績予想ハイライト (2024年3月期)



(単位：百万円)	2023年3月期		2024年3月期									
	通期実績	売上高比率	上期予想	売上高比率	下期予想	売上高比率	通期予想	売上高比率	前期比増減			
									金額	率	率(除為替)	
■ 売上高	70,607	-	37,200	-	40,800	-	78,000	-	7,392	10.5%	12.4%	
■ 営業利益	4,241	6.0%	1,850	5.0%	2,550	6.3%	4,400	5.6%	158	3.7%	-	
■ 経常利益	3,789	5.4%	1,590	4.3%	2,270	5.6%	3,860	4.9%	70	1.8%	-	
■ 親会社株主に帰属する当期純利益	2,807	4.0%	1,100	3.0%	1,750	4.3%	2,850	3.7%	42	1.5%	-	
為替レート (期中平均)	米ドル	135.48円	-	133.00円	-	133.00円	-	133.00円	-	△ 2.48円	△ 1.8%	-
	ユーロ	140.97円	-	136.00円	-	136.00円	-	136.00円	-	△ 4.97円	△ 3.5%	-



■ 連結業績予想の前提

- ① 世界経済は前期比で減速が見込まれるものの、大幅な成長率の減速は回避される可能性が高く、部材不足の影響は徐々に解消の方向
- ② 売上高の製品市場別では、営業活動のさらなる強化による既存製品の販売拡大と、顧客のニーズを捉えた新製品の投入を進め、SG、IP、TAの各市場向け及びFA事業で、増収を見込む
- ③ 地域別では、前期にロシア・ウクライナ問題の影響を大きく受けた欧州で販売拡大を見込むとともに、中国の景気回復が進むアジア・オセアニア、底堅い需要が継続する北米を中心に、国内及びその他地域も含め、全エリアで増収を見込む
- ④ 営業利益は、前期に調達・生産した高コスト部材を使用した製品の販売が進むため売上原価率の悪化を見込む一方で、効率的な費用執行を進めることで販管費率が改善し、若干の増益
- ⑤ 為替レート的前提はUSD:133円/EUR:136円で設定

- 2023年度グループ経営方針を「創造する」と定め、売上高を伸ばしつつ2025年度までに営業利益率10%を達成する「Mimaki V10」の目標に向け、新しい価値を生み出し、革新的なアイデアや方法を取り入れて、より持続可能な未来を創り出すことに、全社をあげて取り組む

営業利益増減要因

(23/3期 実績 vs 24/3期 予想)



(単位：百万円)

【通貨別影響額】

USD	135.48円	→	133.00円	△167
EUR	140.97円	→	136.00円	△545
CNY	19.75円	→	20.00円	△50
THB	3.85円	→	3.70円	△49
BRL	26.28円	→	25.90円	△23
その他 (AUD、IDR等)				△44

合計 △880

【売上・原価・営業利益への為替影響】

売上高△1,286 - 売上原価△202 - 販管費△203 = 営業利益△880

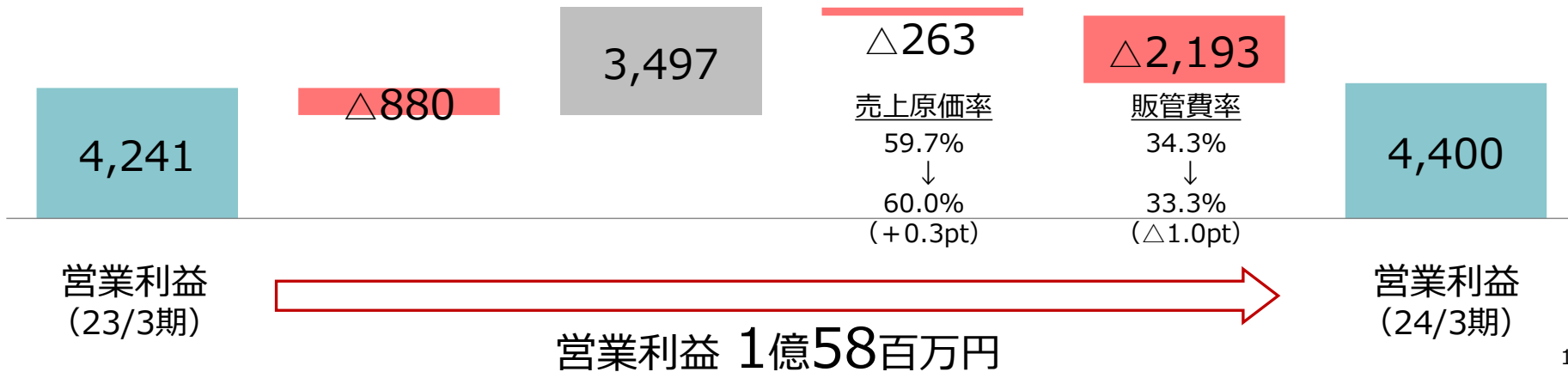
<為替感応度 (1円/年)>

	売上高	営業利益
USD	153	67
EUR	156	109

【売上原価率増減の要因】

前期に調達・生産した高コスト部材を使用した製品の販売が進むため、売上原価率が悪化

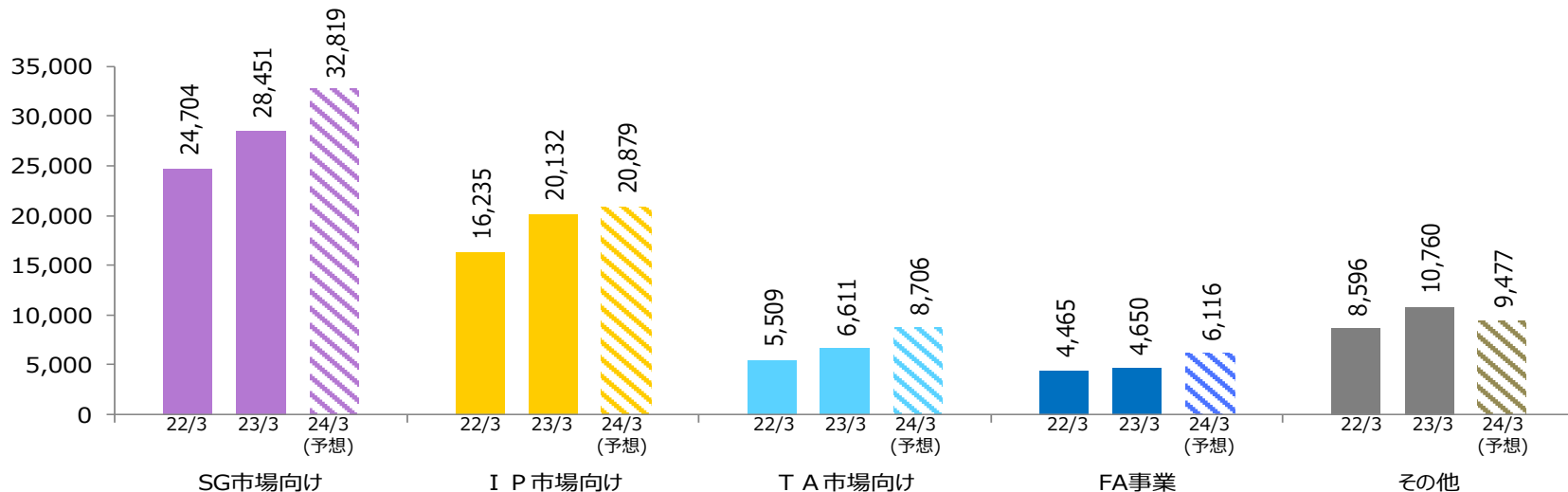
- ①為替影響 ②売上高増減影響 ③売上原価率増減影響 ④販管費増減影響



市場別売上高予想 (2024年3月期)



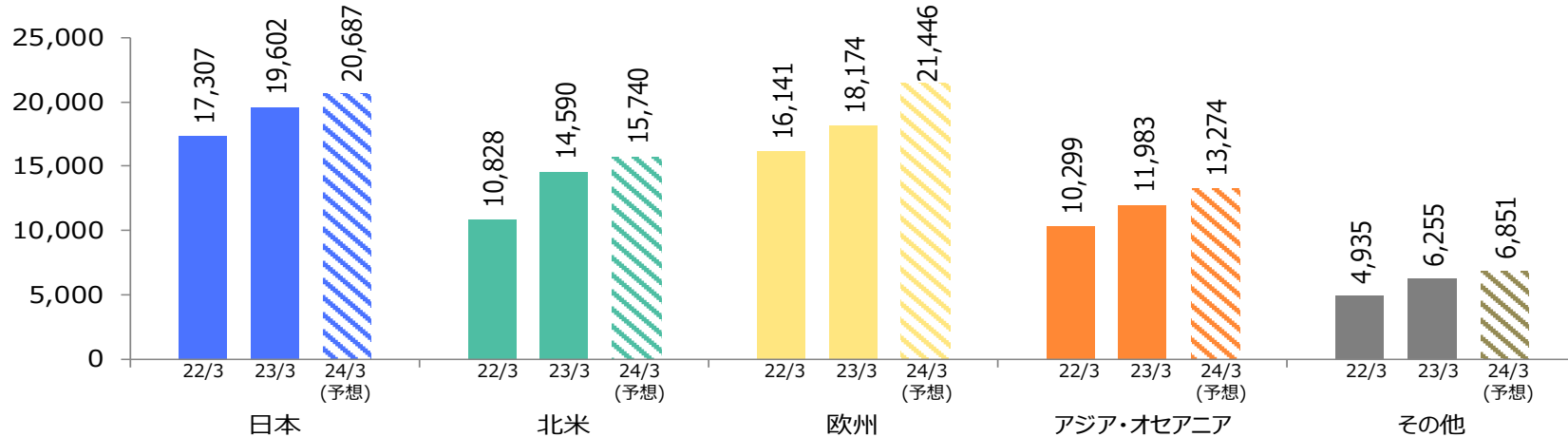
(単位：百万円)	2023年3月期		2024年3月期						
	通期実績	構成比率	上期予想	下期予想	通期予想	前期比増減			構成比率
						金額	率	率(除為替)	
SG市場向け	28,451	40.3%	15,692	17,127	32,819	4,367	15.4%	17.7%	42.1%
IP市場向け	20,132	28.5%	10,325	10,554	20,879	747	3.7%	5.5%	26.8%
TA市場向け	6,611	9.4%	4,021	4,685	8,706	2,095	31.7%	34.5%	11.2%
FA事業	4,650	6.6%	2,337	3,778	6,116	1,465	31.5%	31.6%	7.8%
その他	10,760	15.2%	4,823	4,654	9,477	△1,282	△11.9%	-	12.2%
合計	70,607	100.0%	37,200	40,800	78,000	7,392	10.5%	12.4%	100.0%



エリア別売上高予想 (2024年3月期)

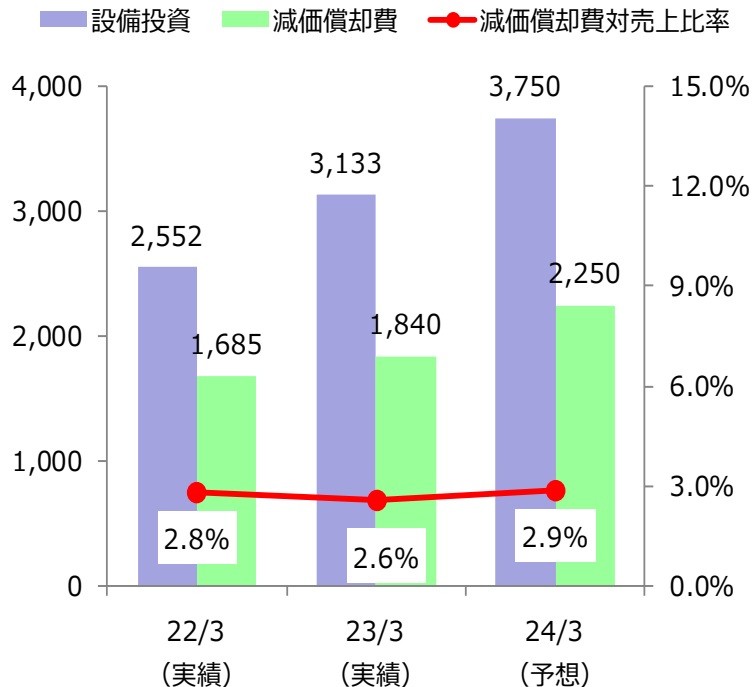


(単位：百万円)	2023年3月期		2024年3月期					
	通期実績	構成比率	上期予想	下期予想	通期予想	前期比増減		構成比率
						金額	率	
■ 日本	19,602	27.8%	9,698	10,989	20,687	1,084	5.5%	26.5%
■ 北米 (現地通貨/\$)	14,590	20.7%	7,628	8,111	15,740	1,149	7.9%	20.2%
	107.6M	-	57.3M	60.9M	118.3M	10.6M	9.9%	-
■ 欧州 (現地通貨/€)	18,174	25.7%	10,112	11,334	21,446	3,272	18.0%	27.5%
	128.9M	-	74.3M	83.3M	157.6M	28.7M	22.3%	-
■ アジア・オセアニア	11,983	17.0%	6,319	6,954	13,274	1,290	10.8%	17.0%
■ その他	6,255	8.9%	3,441	3,410	6,851	596	9.5%	8.8%
合計	70,607	100.0%	37,200	40,800	78,000	7,392	10.5%	100.0%

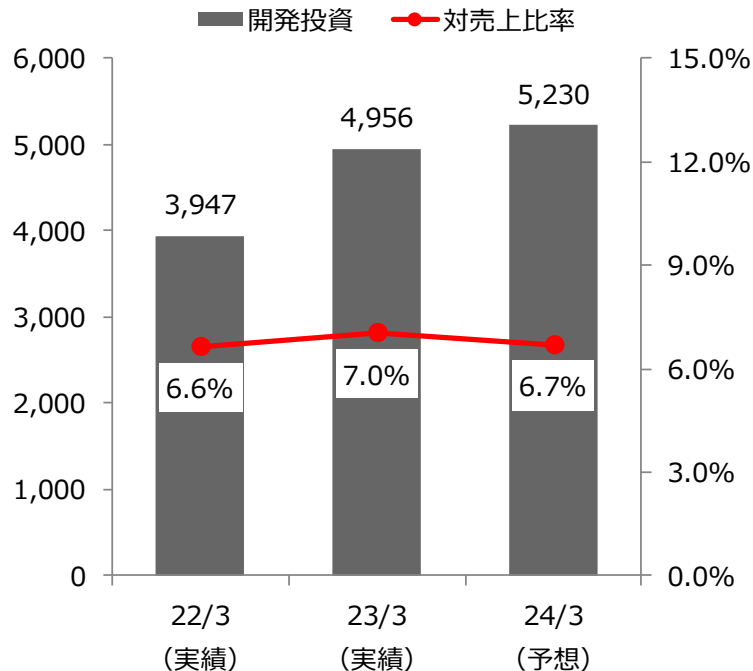


設備投資、減価償却、開発投資予想 (2024年3月期)

(百万円)



(百万円)



※ 上記の金額は、研究開発活動に係る費用の総額を示すもので、既存製品の改良、応用等に関する費用が含まれております。

株主還元

株主還元の方針

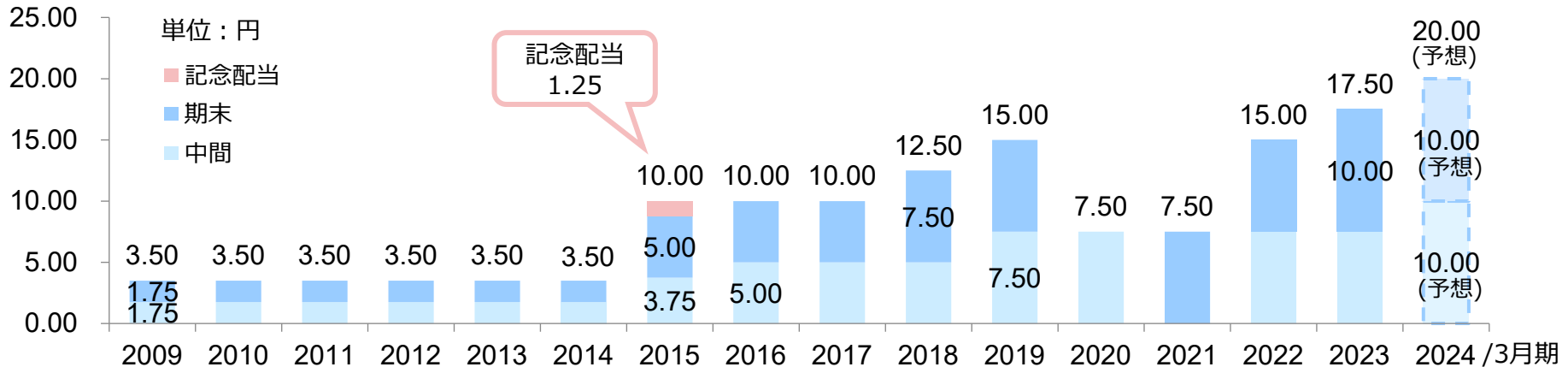
当社は、株主の皆様に対する利益還元を経営の重要政策と位置づけ、業績の成長に見合った成果の配分を安定的かつ継続的に行っていくことを基本方針としています

■ 2023年3月期(実績) 中間：7.5円、 期末：10.0円

当期の業績及び今後の事業見通し並びに安定的・継続的な株主還元方針等を総合的に勘案し、年17.5円に増配

■ 2024年3月期(予想) 中間：10.0円、 期末：10.0円

今後の事業見通し並びに安定的・継続的な株主還元方針等を総合的に勘案し、年20.0円に増配



※ 2015年3月期の記念配当は東証一部上場に係るものです

※ 2015年4月1日を効力発生日として1株につき2株の割合をもって株式分割を実施しています（分割前の配当金は訴求修正して表示）

2023年3月期 連結業績

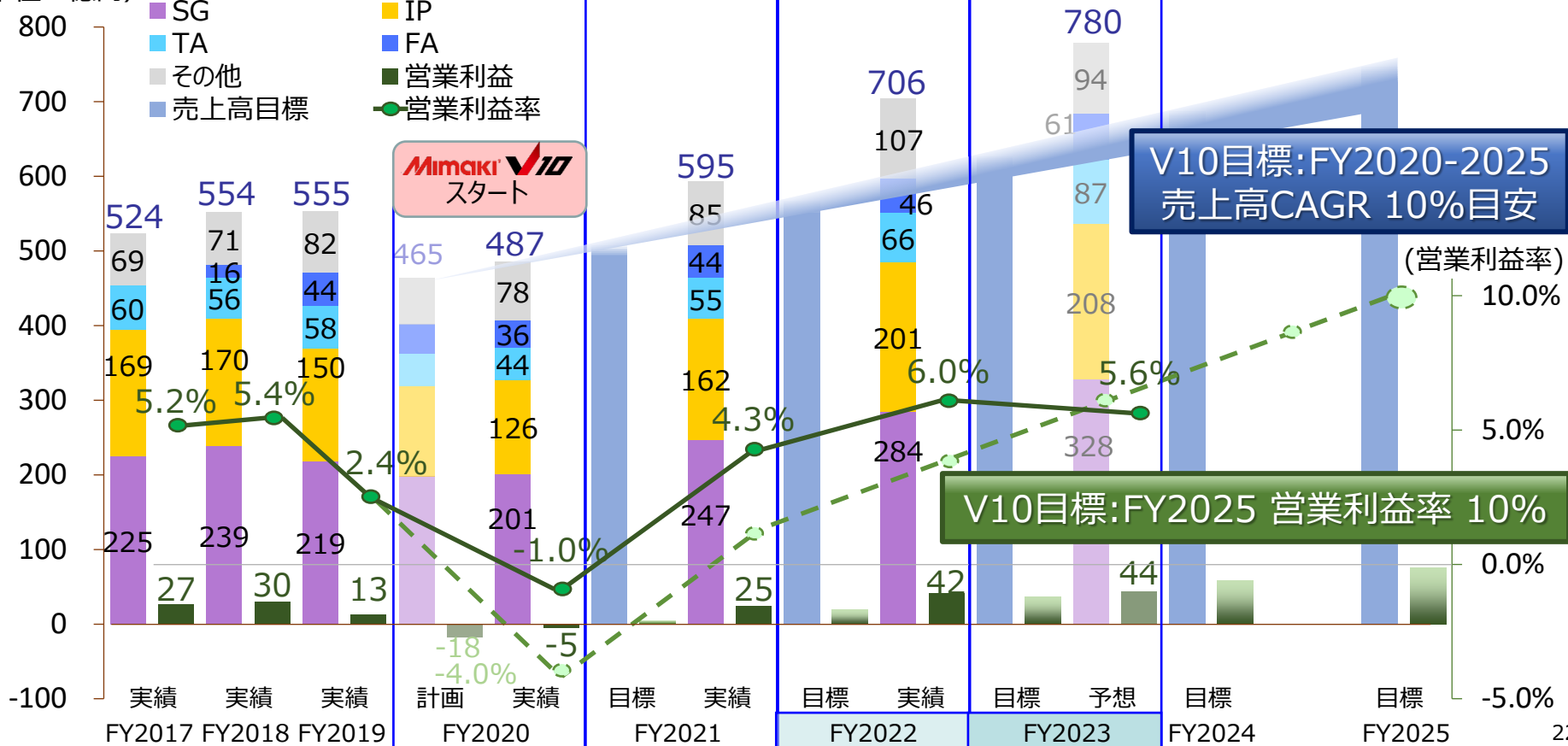
- ❖ 第4四半期・通期実績
- ❖ 2024年3月期 通期予想
- ❖ 中長期成長戦略「Mimaki V10」の進捗と
2023年度 ミマキグループ経営方針

経営ビジョン

- 1 独自技術を保有し、自社ブランド製品を世界に供給する「開発型企业」を目指します。
- 2 顧客に満足いただける製品を素早く提供する小回りの利いた会社を目指します。
- 3 市場に常に「新しさと違い」を提供するイノベーターを目指します。
- 4 各人が持っている個性・能力を力一杯発揮できる企業風土を目指します。

中長期成長戦略「Mimaki V10」の進捗

(単位：億円)



FY2020 新型コロナウイルスの世界的感染拡大

- 売上高 1,000億円を目指した中長期ビジョン「M1000」に取り組んできた
- 新型コロナウイルス禍により世界の状況が一変し、再度取り組み直し
- 新中長期成長戦略「Mimaki V10」を策定し、新たな取り組みを開始

FY2021 経営方針：仕組みをつくる

- 新製品のタイムリーな投入とバーチャルミニ展戦略でコロナ禍からの復興需要への追従

FY2022 経営方針：土台を固める

- インク品質問題や在庫管理、新しい仕組み構築を含めたシステムの更新を目指す
- 世界的な部材の入手難や高騰、物流混乱等の対応に追われ、課題改善には至らず

課題

インクの品質改善、需要予測と生産管理、コスト競争力、新規市場向け販売拡大、仕組みの構築、人的資本への投資、「新しさと違い」の実践

中長期成長戦略「Mimaki V10」経営方針

売上高成長を追求するだけでなく、高い収益を継続的に生み出すとともに、財務基盤を強化して、持続可能な成長に向けた強靱な企業基盤を構築したうえで、2025年度までに営業利益率10%を達成する

「Mimaki V10」目標達成のための仕上げに向かっていく

新しい価値を生み出し、革新的なアイデアや方法を取り入れて、より持続可能な未来を作り出すことに、全社をあげて取り組む

2023年度 ミマキグループ経営方針

創造する

積み残した課題はここで仕組み化して次のステージに向かっていく

1. 「Mimaki V10」製品戦略に基づく新製品の市場投入と販売拡大



SG市場	<ul style="list-style-type: none">■ 「Signはミマキ」、「UVはミマキ」を具現化して訴求する■ エントリーからミドル・ハイエンド、プロダクションモデルまで幅広い市場・用途・ニーズに応じてお選びいただける製品ラインナップをさらに充実する■ 印刷目的に合わせ選択できる豊富な機能性インクを提供する
IP市場	<ul style="list-style-type: none">■ 自動化・省人化で産業用印刷のデジタル化を推進する■ Print + Cut + α (Coating or Something) で産業用のさらなる深掘りを進める■ 新たな製品アプローチで、より高精細・高付加価値な新規市場開拓を進める
TA市場	<ul style="list-style-type: none">■ ミドル・ハイエンドモデルのラインナップを充実させ、高画質・高生産性・低ランニングコスト訴求で導入を加速する■ 顔料転写技術でDry Processを推進し市場開拓を進める
3Dプリンティング事業	<ul style="list-style-type: none">■ 3Dプリンタを次の柱として育成する■ 有力ソフトウェアメーカー (AutoDesk等) を含めた幅広いパートナーシップを構築しフルカラーによる3D造形の市場成長を加速させる■ 3Dプリンタ販売チャネルの開拓と強化を継続する

2. 市場環境や顧客ニーズの急激な変化を見据えた事業展開

取組み

コロナ禍影響後の市場環境や顧客ニーズの変化を見据え、製品開発でInnovationを起こし、新規市場・新規アプリケーションを開拓する

2022年度/下期 新製品

DTFプリンタ **TXF150-75**

Mimakiの技術を詰め込んだ
「安心安定」のDTFプリンタ



- テキスタイル・アパレル印刷用途に向けた、ミマキ初のDTF(Direct to Film^{*1})プリンタ
- 白インク循環機能MCT^{*2}と脱気インク設計で仕事を止めずに安心・安定稼働をご提供

*1 フィルムに印刷後、熱プレスで生地転写する印刷方式

*2 Mimaki Circulation Technology

CFX Series

ハイエンドフラットベッドカッティングプロッタ



- ステッカー、ラベル、ポップ、サインボード、什器等のサイングラフィックス用途や、紙器・段ボール加工など多様な用途で効率よく加工が可能
- 最大速度100cm/s、最大圧力30kg、Vカット対応のハイエンドモデル

取り組み ① インクの品質改善

- インク品質改善を最優先課題として取り組みを継続
 - ✓ 原材料受入・製造・出荷までの検査データ蓄積と分析評価を強化、問題発生原因の特定
 - ✓ 生産工程から検査工程までの各段階での工程改善

取り組み ② 需要予測と生産管理

- 引き合いプロセス管理による営業の需要予測精度向上
- 生産計画プロセスの見直しによる適時供給と在庫削減
- 発注改善による部材滞留在庫抑制
- キーデバイスを中心に調達先の再検証

取り組み ③ コスト競争力

- 中国機に勝てるコスト競争力の実現
 - ✓ モジュール開発・ユニット開発の継続強化
 - ✓ 国内工場の効率化・能率化による生産性向上
 - ✓ 調達改善・物流改善によるコスト削減

取り組み ④ 新規市場向けの販売拡大

- プロダクションモデルチャネルの構築
 - ✓ 大型機・ハイエンド機の販売チャネルを確立
- 新規チャネルの開拓
 - ✓ 自動化・省人化ソリューションで産業用印刷のデジタル化提案を推進
 - ✓ 3Dプリンタを次の柱にするための新規チャネルづくり
- 既存チャネルではNo.1シェアを獲得・維持・強化

取り組み ⑤ 仕組みの構築

- 経営管理システムの更新
 - ✓ 集計作業から脱却し将来予測できる仕組み作り
- 急激な需給変動に対応し、適正在庫を維持したサプライチェーンに向けた基盤構築
 - ✓ 需要予測→調達→生産→物流・在庫管理→販売 まで、効率的かつ機動的なサプライチェーンの仕組み再構築に向けた取り組み

取り組み ⑥ 人的資本への投資

- 中核人材の確保
- 多様性の確保
- 教育体系の充実、人材育成の強化
- 職場環境の改善、福利厚生制度の充実
- 今期 5%昇給(国内)

取り組み ⑦「新しさと違い」の実践

- 技術を磨く
 - ✓ モジュール別・ユニット別技術と要素技術
- イノベーションを起こす
 - ✓ インクのさらなるイノベーション
 - ✓ オープンイノベーション
 - ✓ 少し先を見た「要素開発」と「研究開発」の比重を上げていく
- 新製品の予定とおりのリリース

「お客様が儲かればミマキも儲かる」ことをしっかりと考えて、

TEAM Mimaki として取り組む

本資料に関するお問合せ先

株式会社 **ミマキエンジニアリング**

I R 部

TEL (本社) 0268(80)0058

TEL (東京) 03(3442)5035

E-mail mimaki-ir@mimaki.com

〔本資料お取扱い上のご注意〕

本資料は、株式会社ミマキエンジニアリング（以下、当社）を理解いただくため、当社が作成したもので、当社への投資勧誘を目的としておりません。本資料を作成するに当たっては正確性を期すために慎重に行っておりますが、完全性を保証するものではありません。本資料中の情報によって生じた障害や損害については、当社は一切責任を負いません。

本資料中の業績予想ならびに将来予測は、本資料作成時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため、事業環境の変化等の様々な要因により、実際の業績は言及または記述されている将来見通しとは大きく異なる結果となることがあることをご承知おきください。